

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	「学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例」
-------	--

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

静岡県三島市

○学校名

三島市立北中学校

○学校のURL

<http://blog.city-mishima.ed.jp/blog-j/m122>

2. 学校紹介

○学級数

1年…7学級 2年…6学級 3年…6学級 特別支援学級…5学級

○児童生徒数

1年…217名 2年…201名 3年…190名 特別支援学級…34名

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

学校の教育目標 「感動する心」「問題を解決する能力」「健やかな心身」
人権教育に関する目標 「命を大切にする」
「自分や相手を大切にする生徒」
(伝え合い、認め合う集団づくり)

○人権教育にかかる取組の全体概要

各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間など、学校教育全般にわたって、一人一人がかけがいのない存在であるという人間観に立ち、“受容・共感”を基本に生徒と接する。また、スクールカウンセラー、地域、家庭など広い視野に立って、いろいろな角度から生徒を見守り、育てるという取組を行っている。

3. 特色ある実践事例の内容

- ・自分や相手を大切にすることを育てるための工夫
～伝え合い、認め合うことができる集団づくりを通して～

本校の研修の特徴を挙げるとして、まず思い浮かぶのが特別支援教育への意識である。これは平成15年度から「特別支援教育推進体制モデル事業」の委託を受け研究が行われたことに起因している。現在でも、Q-Uを用いた生徒理解、授業における「学習の流れ」の提示、コミュニケーションボードの活用やコミュニケーションタイム（CT）の実施など、様々な教育活動として本校に根付いている。平成20年度からは「地域福祉教育事業実践校」の指定を受け、ノーマライゼーションの考えを学校の中で実現し、生徒相互が個性や特性を認め合い、協力し合う集団づくりを目指して研究が進められた。平成22年度からは、これまでの研究成果を授業改善に役立て、確かな学力を身につけるための工夫として、かかわり合い、学び合う力の育成を目指した研究を実践してきた。本時のねらいにせまるかかわり合い、学び合い活動の実践、効果的なグループ編成、教師の発問の工夫等について研修を重ね、学校評価アンケートにおいて、授業の内容が良くわかると答える生徒の割合が増加するなど、一定の成果を上げることができたと考えられる。

このように、ここ10年の研究を振り返ると、その根底には必ず特別支援教育の意識があり、特別支援教育への取り組みが本校の教育活動を支えていることがわかる。そのため、本研究も特別支援教育の土台の上に成り立つものでなければならぬと考えた。

昨年度、三島市教育委員会より「命を大切にすることを育てるための工夫」というテーマで指定研究を受けるにあたり、本校のこれまでの取り組みや生徒の実態を踏まえた取り組みになるように考えた。前述の学校評価アンケートでは、「病気や怪我に気を付けて生活している」に「はい」と答えた生徒は82%、「避難訓練など防災について真剣に取り組んでいる」については86%と、自分の健康や防災への意識が高いことがうかがえる。当然、生徒たちは「命」はかけがえのないものであり、大切にしなければいけないことを十分理解している。さらに、東日本大震災に関する一連の世の中の動きを肌で感じ、「命」について考える機会も多かったと思われる。しかし、改めて日常の生活に目を向けてみると、その思いとは裏腹に自分や相手を傷つけてしまう場面も見られた。このような言動からまだまだ日常の中では自分や相手を大切にすることを育てるための工夫が不足しており、自他を大切にしようとする気持ちを育むことが「命を大切にすることを育てるための工夫」につながると考えた。

そこで、伝え合い、認め合う活動を中心に授業を展開することで自己肯定感を高め、自分のよさに気づくことができたり、相手の特性や考え方を知り、相手に対する思いやりの気持ちを育んだりできる人間関係の構築を図っていくこととし、研究主題を「自分や相手を大切にすることを育てるための工夫～伝え合い、認め合うことができる集団づくりを通して～」と設定した。

4. 実践事例の実績、実施による効果

授業実践 (平成25年4月～)

(1) グループごとの研究授業から

①道徳グループ 「相手を理解する」(3年)

場面 授業導入場面において、個々の考えを持ち、表明する場面でマグネットを使用する。

考えを深める場面において、班で個々の意見を交換するところでホワイトボードを使用する。

ねらい ホワイトボードを使うことで、多くの人の考えを知ることができる。また、個々の意見を可視化することで、個々の考えの変化をわかりやすくする。

手立て 班の話し合い活動において、班員の意見を、ホワイトボードにまとめ、発表するときに提示する。

「どちらを選択したか。」という発問に対して、個々に配布した2種類のマグネットのうち選択した方を黒板に貼ることで、個々の意見を可視化する。

②学級活動グループ 「聞き方の達人～上級編～」(特別支援学級2年)

場面 主発問「相手が『話してよかった。』と思えるような返事の会話文を考えてみよう。」に対して自分が考えた返事の言葉を発表しあう場面。

ねらい フラッシュカードに書いて提示することで、挙手発表が苦手な生徒も自分の意見を全体に発表することができるようになる。

手立て フラッシュカードに各自が考えた返事の言葉を記入させ、それを黒板に貼り、全体の前で発表する。

③教科グループ(社会) 「社会権と基本的人権を守るための権利」(3年)

場面 自分にとって健康で文化的な最低限度の生活をするために、1年間に最低限必要な日用品の数を書かせた後、実際に支給された数を示す。この措置をとる国の考えが、違憲か違憲でないかを考える場面。

ねらい 付箋を使うことで自分の意見を目に見える形で班員に表明する。また、ホワイトボードに班の結論である判決を書くことで、判決を下す体験をする。

手立て 話し合いの際、付箋に自分の意見(判断)と理由を書き、色画用紙に貼ることで意見表明をする。リーダーが意見をまとめ、小ホワイトボードに書き、発表する。

成果と課題

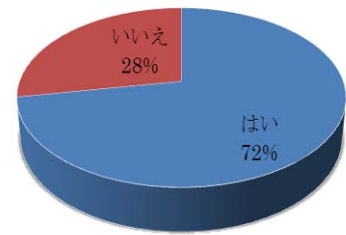
内容が面白く、生徒も興味深く取り組むことができた。話し合いも積極的に行い、普段発言があまりない生徒も自分の意見を言うことができ、授業後も意欲的に補助資料を取りに来た。付箋に意見を書き、ホワイトボードにまとめて提示する方法は効果的だった。

5. 実践事例についての評価

○あなたは、授業中に自分の意見を人に伝えたいと思いますか？

「はい」の理由

- ・聞いてもらえると嬉しいから。
- ・自分の考え方と他の人の考え方はどう違うのか、知りたいから。
- ・自分の意見を言えば共感してくれる人もいるし、違うことを指摘してくれるから。



「いいえ」の理由

- ・恥ずかしいから。
- ・自信がないから。
- ・違うことを言ったらばかにされたり、笑われたりするから。

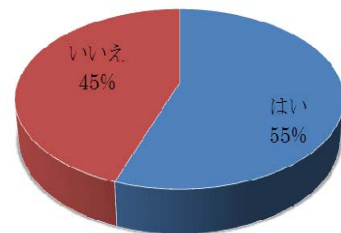
○あなたは、授業中に進んで発言をしていますか？

発言する理由

- ・自分の意見を伝えたいから。
- ・発表した方がスッキリする感じがするから。
- ・周りに認めてもらいたいから。

発言しない理由

- ・自分の言いたいことがしっかり言えないから。
- ・「間違えたらどうしよう」と思ったり不安になったりして、勇気が出ないから。
- ・「間違ってもいい」と言うけれど、やはり間違うのは怖いから。



○あなたは友達に「自分の気持ちを知ってほしい」と思いますか？書ける人はなぜそう思うのかも書いて下さい。

- ・自分だけ取り残されると悲しいから。
- ・お互いのことをよく知ることができるし、わかり合えるから。
- ・自分を理解してくれる人が少しでもいてくれたら、気が楽になると思っているから。
- ・自分の気持ちを教えたら、相談やアドバイスをくれると思うから。

○あなたは誰かの前で発言するときに、自分の気持ちが伝わったと感じることがありますか？書ける人は、なぜそう感じたのかも書いて下さい。

- ・自分が意見を言うとみんながそれにアドバイスや付け足しなどをしてくれるので、「伝わったな」と思う。
- ・相手が自分の思っていたように行動してくれたとき。
- ・うなずいて聞いてくれたり、「同じ！！」と言ってくれたりするとき。
- ・意見を言ったときに、みんなが納得できたという雰囲気を感じたことがあったから。
- ・みんなが「確かに」「そうだね」「賛成です」などの言葉を言ってくれたとき。
- ・拍手してくれたとき。